

2 4. 総義歯印象

<到達目標>

- ・ 歯科医師の指示に従うことができる
- ・ ステップ毎に報告できる
- ・ 必要器材を的確に準備できる
- ・ トレーの適合が判断できる
- ・ 辺縁形成できる
- ・ 印象材を練和できる
- ・ 必要な印象域がすべて採得できる
- ・ 印象採得後の患者のフォローができる
- ・ 後片付けができる

<設定場面>

患者は 80 代女性。上下顎とも無歯顎で、旧義歯が不適合のため再製することになった。

<治療手順>

1 日目

1. 診査・診断

歯科医師：患者の誘導と本日の診療内容の説明を指示する。

衛生士（助手）：患者をチェアに誘導し、診査を行う旨を説明する。

歯科医師：顎堤・小帯付着部・フラビーガムの状態などを診査する。

2. 診断用・個人トレー作成用印象採得 必要器材：無歯顎用トレー、ユーティリティーワックス、アルジネート印象材、ラバーボール、アルジネート用スパチュラ

衛生士：患者に印象を行う旨を説明し、同意を得ておく。

衛生士：患者の口腔に適合すると思われる無歯顎用トレーを選択し、術者に手渡す。

歯科医師：トレーを試適し、辺縁の短い部分はユーティリティーワックスを
足す。

衛生士（助手）：アルジネート印象材の練和と補助を行う。

歯科医師：概形印象を行う。

2 日目

1. 個人トレーの試適 必要器材：個人トレー、技工用カーバイドバー

歯科医師：出来上がった個人トレーを試適し、過剰部・鋭利な部分をトリミ
ングする。

衛生士：トリミングで出る粉塵の吸引を行う。

2. 辺縁形成（筋圧形成） 必要器材：コンパウンド、アルコールトーチ、 ウォーターバス、ディスクロージングワックス

歯科医師：アルコールトーチでトレー辺縁に付けたコンパウンドを軟化する。

歯科医師：口腔内に挿入しても大丈夫な程度にコンパウンドをウォーターバス
で下げ、

口腔内に挿入する。患者にはトレーの辺縁に粘膜の可動範囲がマークされるよ
うに誘導するか、運動を指示する。この操作をトレーの辺縁全周にわたって行
う。

衛生士：辺縁形成の終わったトレーを冷水にとり、コンパウンドを十分に硬化
させた後、スリーウェイシリンジで乾燥する。

3. 印象採得 必要器材：エンジン、エンジン用ラウンドバー、シリコー ン印象材、印象材用接着材、練和紙、ゴム質印象材用スパチュラ、手鏡

歯科医師：遊離歯肉の部分は、圧力を掛けないで印象できるように、ラウンド
バーを使ってトレーに数カ所穴を開ける。

衛生士：削片を飛ばしてから、トレーの内面と辺縁 5mm ほどに接着材を塗り、
十分に乾燥させておく。

衛生士：患者の口唇・口角付近に分離材として薄くワセリンを塗布する。

衛生士（助手）：印象材を練和し、気泡が入らないようにトレーに盛り上げ渡す。

歯科医師：印象材の盛られたトレーを口腔内に挿入し、下顎では舌を動かしてもらおう。また、口唇の牽引を行い辺縁の印象を行う。

衛生士：硬化までトレーを口腔内に保持する。

歯科医師：硬化後、トレーを口腔内から撤去し、印象面を確認する。

衛生士：洗口を指示した後、患者の口腔周囲を確認し、印象材がついているようであれば手鏡を渡し、きれいにしてもらおう。

歯科医師：診療の終了を指示する。

衛生士（助手）：処置の終了を告げ、次回の予約の日時と処置内容の説明を行う。

助：診療後の後片付けを行う。

24. 総義歯印象

必要器材

- ① 無歯顎用トレー ② ユーティリティーワックス ③ アルジネート印象材 ④ ラバーボール ⑤ アルジネート用スパチュラ ⑥ 作製した個人トレー ⑦ 技工用カーバイドバー ⑧ エンジン ⑨ コンパウンド ⑩ アルコールトーチ ⑪ ウオーターバス ⑫ ディスクロージングワックス ⑬ エンジン用ラウンドバー ⑭ シリコーン印象材 ⑮ 印象材用接着材 ⑯ 練和紙 ⑰ ゴム質印象材用スパチュラ ⑱ 手鏡